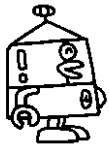


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

けんび鏡で見た花粉は、なぜとげが多いの



虫に運ばれる花粉は、虫の体にくっつきやすいように、とげや、ねばねばや、からみつく糸がついているのさ。

花粉は、虫などが体にくっつけて運ぶか、風が運ぶ

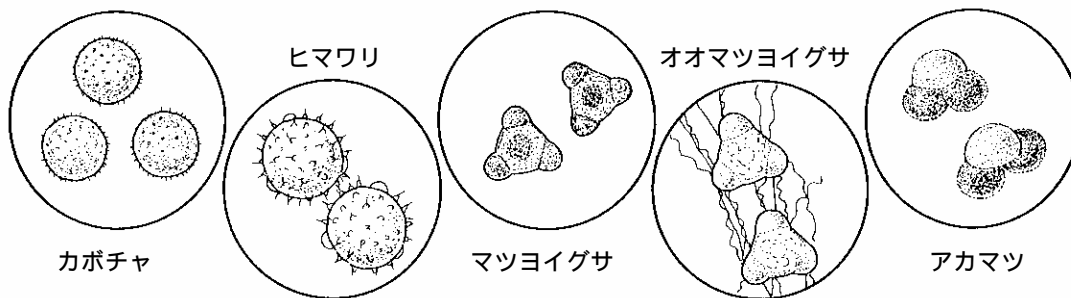
花粉がないと、花は実やたねをつくることができません。花粉がめしべの柱頭^{ちゅうとう}につくと(受粉^{じゅふん})、めしべの根もと(子ぼう)が成長して実になり、たねができます。また、同じ花の中におしべがあっても、ふつうは、別の株の花^{かぶ}粉を受粉するしくみになっています。そのほうが、病気などに強いよいたねができるからです。

そのため、花粉は、花のみつをすいにきた虫の体にくっついて、別の花のめしべに運ばれるか、風に飛ばされたり、水に流されたりして運ばれます。いちばん数が多い、虫に運ばれる花粉は、虫の体にくっつきやすくなっています。

虫に運ばれる花粉は、くっつきやすいしかけをもっている

カボチャ、ヒマワリ、キク、タチアオイなどの花粉は、とげがたくさんあります。ユリやマツヨイグサの花粉は、ねばねばしています。また、ツツジやオオマツヨイグサの花粉は、からみつく糸のようなものをもっています。とげやねばねば、からみつく糸などは、虫の体にくっつきやすくなるしかけなのです。

風が運ぶアカマツの花粉は、空気ぶくろがあり、風に運ばれやすくなっています。



けんび鏡で見た花粉